特別講演

講師　バルトシュ・マルコウスキ（Bartosz Markowski）

石造物保存修復家、ポーランド、ワルシャワ文化財保存修復研究所所長、
ワルシャワ芸術作品保存修復アカデミー会員

略歴

2003 年ワルシャワ美術アカデミーを修了。石造品の保存修復の専門家。
1999 年からシリアのハワルテ（Hawarte）、2002 年からパルミラ（Palmyra）でワルシャワ大学のポーランド地中海考古学研究所（PCMA）と共同研究を行っている。2016 年には、被害を受けたパルミラ博物館の展示品救出活動に参加した。2005 年（PCMA 実施）と 2017 年（ユネスコ実施）のパルミラ「アラートのライオン」像の修復実施責任者。UNDP プロジェクト「パルミラの彫像を用いた保存修復手法のトレーニング」（2020-2021 年、2024 年）の講師。中東での活動に加え、ウクライナ、ベラルーシ、リトアニア、ラトビアなど、海外でポーランドの国家遺産を保護することを目的としたプロジェクトに従事している。

講演題目　「破壊されたシリア、パルミラ博物館の彫像の緊急保存修復、2016-2024 年」

2016 年 4 月と 5 月、いわゆる「イスラム国」の支配からパルミラが解放された直後、ワルシャワ大学地中海考古学研究所（PCMA）の専門家チームは、シリアの古物博物館総局（DGAM）のパルミラ博物館での救出と保存作業に参加した。こうした緊急下での作業目的は、危機の間に損傷を受けた遺物や破片を保護し、さらにそれらを避難させ、将来の保存作業に備えることだった。その後数年間、遺物の保存作業が続けられた。

2017 年、ユネスコ・DGAM プロジェクトの一環として、パルミラのアラート神殿にあったアラートのライオン像が修復され、現在はダマスカスの国立博物館の新しい場所に展示されている。2020 年から 2021 年と 2024 年には、日本政府が UNDP に拠出した資金から、奈良県立橿原考古学研究所がコーディネートするシリア人文化財関係者人材育成プログラムが実施された。このプロジェクトでは、シリアの文化遺産関係者と協力して、主にパルミラの胸像を中心とした約 100 点の石造品が修復された。主に、混在した彫像の破片をマッチングさせ、接合する作業だった。このプロジェクトはまた、通常保存修復に携わることのない文化遺産関係者にとっても有意義な研修となった。